

Linux 向け Active Backup for Business 管理者ガイド

Active Backup for Business 2.7.0を前提としています



目次

はじめに	2
本ガイドについて	2
想定読者	2
Active Backup for Businessとは？	2
機能と管理ツール	4
バックアップと復元機能	4
バックアップ管理	5
プランニングと準備	6
条件	6
検討事項と制限事項	7
バックアップのヒント	7
バックアップ設定	9
Linuxのバックアップ	9
バックアップタスクの作成	10
バックアップタスクの管理	12
復元ガイド	15
復元オプション	15
デバイス全体の復元	16
個々のファイルを復元	16
仮想マシンとして即時復元	17
仮想マシンとして全体復元	18
Synology Virtual Machine Manager (VMM) への即時の復元	19
ベストプラクティス	21
リモートバックアップのコピーを保持し、再リンクする	21
詳細情報	23
関連の記事	23
ソフトウェア仕様	23
その他のリソース	23

はじめに

本ガイドについて

本ガイドでは、Active Backup for Businessの概要を理解していただいたから、バックアップタスクの初期セットアップの実施を説明し、そして復元に関する情報を提供します。

想定読者

本ガイドは、LinuxデバイスのバックアップをするためにActive Backup for Businessを使ってみたいという方向けに書かれています。

Active Backup for Businessとは？

Synologyのオールインワン型商用データ保護ソリューションである**Active Backup for Business (ABB)**は、数々の受賞に輝くDSMオペレーティングシステムをベースにしています。ABBは、仮想マシン、物理サーバー、ファイルサーバー、パーソナルコンピューターなど、さまざまなIT環境にわたるデータ保護を一元化します。管理者は、希望する保護プランを、ABBの一元化された管理コンソールを通して自分一人で展開できます。

ABBはまた、広範囲のバックアップオプションおよび復元ツールのみならず、多くのオプション技術や安全に関する機能を提供します。

Active Backup for Business使う理由

- **お客様のワンストップバックアップソリューション** – バックアップ環境内のすべてが対応しているかどうかの確認は簡単ではありません。特に考慮すべき要因が多い場合には、ABBは、お使いのSynology NASにオールインワンのソリューションを与えることで確認がシンプルに行えます。
- **スマートストレージ** – ABBは、クロスプラットフォーム、クロスデバイス、クロスバージョンでの重複排除を組み込んだ設計になっており、バックアップ時間が短縮され、ストレージの利用効率が向上します。(対応モデルを見る)。
- **制約のない拡張性** – デバイスやデータが増加していたとしても問題ありません。ABBでは、デバイスやデータの数は無制限、ライセンスフリーで保護ができます。
- **一元管理** – 直感的に利用できるABBのウェブベースのポータルにより、複数プラットフォームにまたがるバックアップタスクやデバイスの管理にかかるIT作業者の負担を無くします。
- **統合サポート** – 問題が発生した場合、それがハードウェアかソフトウェアいずれに関連することであっても、Synologyのテクニカルサポートはいつでもご支援ができ、異なるプロバイダーからの支援を得るために必要な時間と労力を減らせます。

機能と管理ツール

バックアップと復元機能

増分バックアップ

増分バックアップは、バックアップ先に保存される重複排除されたデータの量だけでなく、各バックアップで転送されるデータ量を減らすバックアップ機能です。これは、変更履歴を記録し、前回のフルバックアップ以降に変更あるいは新たに追加されたデータだけをバックアップするものです。これは、利用できるバックアップバージョンの数を最大化し、バックアップ保持で使用されるストレージ量を最小化します。さらに、ソースデバイス上での時間と帯域を節約します。

Active Backup for Businessに採用されているCBT技術は、Active Backup for Businessエージェントのインストール中にデバイスにインストールされるスナップショットドライバーによって導入されます。このドライバーは、変更されたブロックだけをバックアップされるよう、以前のバックアップと現在のバックアップとの差分を記録します。

データ重複排除

Active Backup for Businessは、Synology NASにバックアップを保存する際に、異なるファイル、バージョン、あるいはデバイス間で同一のデータを検出し、削除します。内蔵の重複排除技術により、ストレージの使用が削減され、特にデバイスが類似のオペレーティングシステムやソフトウェアアプリケーション、ファイルを共有している場合に効果的です。

データ重複排除技術についての詳細情報と、ABBでの重複排除の算出方法は、[データ重複排除ホワイトペーパー](#)をご参照ください。

内蔵ハイパーバイザー

ABBとSynologyの内蔵ハイパーバイザーである**Synology Virtual Machine Manager (VMM)**を統合することで、Active Backup for Businessの次の2つの優れた機能が発揮され、サーバーのクラッシュ時により効率的な復元が可能になります。**バックアップ検証**と**即時復元**。

バックアップ検証

バックアップ検証が有効化されると、復元のためにスケジュールされる試運転は設定秒数の間、VMMで実行されます。このプロセスは、参考のためビデオに記録されるため、突然の災害時にも、データのバックアップが正常に復元できることを確認できます。

即時復元

即時復元によりユーザーは、ABBでバックアップされたサーバーと仮想マシンを、Synology VMM内の仮想マシンとして即時に復元できます。システムクラッシュ時にもサービスを利用し続けながら、この

機能を使用して迅速な回復が可能です。

バックアップ管理

Active Backup for Business エージェント

Active Backup for Business エージェントは、バックアップタスクを実行する前に、お客様のクライアントデバイスにインストールされるユーティリティです。このエージェントをインストール、アップデート、またはアンインストールするには、管理者権限が必要です。

このツールは、[ダウンロードセンター](#)でダウンロード可能です。インストレーション手順、大規模なデプロイメントに関する詳細、その他の情報については、[ABB エージェントヘルプ記事](#)を参照してください。

Active Backup for Business Portal

Active Backup for Business Portal は、ABBに関連した復元ポータルです。このポータルにより、管理者および管理者によって任命されたエンドユーザーが、バックアップされたデータにアクセス、閲覧、ダウンロード、および復元することができるようになります。

このツールは、Active Backup for Business パッケージのインストール中に自動的にインストールされます。ポータルの操作の仕方や、復元の実行方法、およびその他の設定は、[ABBポータルのヘルプ](#)を参照してください。

Active Backup for Business 復元メディア作成

SynologyのLinux用Active Backup for Business リカバリメディアクリエイターは、ABBと共に使用できるデスクトップツールです。このツールは、ベアメタルまたはボリュームレベルの復元用にリカバリメディアを作成する際に、Linuxにインストールされます。

Linuxデバイスの場合、レガシーBIOSまたはUEFI用に、ISOイメージ作成ソフトウェアを使用してブータブルUSB復元ドライブを作成する必要があります。詳細は、「[Linuxデバイス用ブータブルUSB復元ドライブを作成する](#)」を参照してください。

Linuxでのリカバリメディアの作成についての詳細は、「[リカバリメディア作成ガイド](#)」の「[Linuxデバイス用のリカバリメディアの作成](#)」セクションをご覧ください。

プランニングと準備

条件

詳細な情報は、「[Active Backup for Businessの全仕様](#)」を参照してください。

NASシステム要件

推奨事項は、「[Active Backup for Businessを実行する適切なNASの選び方](#)」を参照してください。

アイテム	条件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• DSM 7.0 以降 (ABB 2.2.0 以降)• DSM 6.2 以降 (ABB 2.2.0 以降)
CPUアーキテクチャ	64 ビット x86 (x64)
システム メモリ	理想的なバックアップ パフォーマンスのため 4GB RAMを推奨
ファイル システム	Btrfs

サポートされるシステム

バックアップタイプ	システム/バージョン
Linux	<ul style="list-style-type: none">• システムカーネルバージョン 2.6~6.8• サポート対象ディストリビューションプラットフォーム：<ul style="list-style-type: none">◦ CentOS 7.8、7.9、8.1、8.5◦ RHEL 6.10、7.8、7.9、8.1、8.4、8.5、8.6、8.7、8.8、8.9、8.10、9.0、9.1、9.2、9.3、9.4◦ Ubuntu 16.04、18.04、20.04、22.04、24.04◦ Fedora 38、39、40◦ Debian 10、11、12

バックアップと復元に関する要件の全一覧は、[要件と制限事項](#)をご参照ください。

検討事項と制限事項

NAS

- バックアップ性能を最大化するためには、DSMで同時に実行するパッケージの数が多すぎないようにしてください。
- バックアップタスクを実行するためには、バックアップ先とパッケージがインストールされているボリュームの両方に少なくとも8 GBの空きスペースを確保してください。

バックアップクライアント (Linuxデバイス)

- バックアップクライアントは、**ext2**、**ext3**、**ext4**、**XFS**のいずれかのファイルシステムを使用していなければなりません。
- ABBは、[Linuxスナップショットのドライバーベースの変更ブロックトラッキング](#)を活用して増分バックアップを実行します。スナップショットストレージに適切な量のディスク容量を確保してください。
- 外部デバイス向け：外部ハードディスクのみバックアップできます。フロッピーディスク、サムドライブ、フラッシュカードリーダーなど他の外部デバイスはサポートされません。
- 4Knディスクを持つはサポートされません。
- Windowsの仮想ハードディスク (VHD) のバックアップはサポートされません。VHDをバックアップする場合は、**デバイス全体**またはVHDファイルがある**ボリューム**をバックアップしてください。
- 次のデバイスタイプだけがサポートされます。`/dev/sdx`、`/dev/hdx`、`/dev/vdx`、`/dev/nvmex`、`/dev/mdx`。

ネットワーク

- NASとクライアントの間でセキュアな接続を確立するには、DSMがABBに対する[有効な証明書](#)を持っているようにしてください。
- エージェントからサーバーへの接続にDDNSあるいはIPアドレスを使用する場合は、[推奨ネットワーク構成](#)を参照してください。

バックアップのヒント

- お使いのABBバージョンで[バックアップ対象のデバイスがサポートされている](#)ことを確認してください。
- バックアップが過大な領域をとらないように、古いバックアップバージョンが削除されるよう、**保持ポリシー**を設定してください。
- データの通常のバックアップが維持されるよう、**バックアップスケジュール**を設定してください。
- ユーザーが必要に応じてバックアップおよび復元の個別ファイルまたは全体を表示できるよう、**Active Backup for Business Portal**へのアクセスを許可してください。
- **Hyper Backup**または**Snapshot Replication**を用いて、**3-2-1 バックアップルール** (3つのバックアップ、2つの異なるストレージメディア、1箇所はオフサイト) を導入することで、2つ目の保護レ

イヤを追加してください。

バックアップ設定

次のセクションは、バックアップ ターゲットの準備、バックアップ タスクの作成と実行、オプション および設定についての手順をご説明します。

Linuxのバックアップ

Active Backup for Businessは、[Synology Active Backup for Businessエージェント](#)の動作により、Linuxデバイスをバックアップできるようになります。

はじめる前に

1. 保護しようとするターゲット デバイスに**Synology Active Backup for Business**エージェントをインストールしてください。32ビット版または64ビット版のインストーラーをデバイスにダウンロードするには、Synologyの[\[ダウンロードセンター\]](#)または、**[Active Backup for Business] > [物理サーバー] > [追加]**に進みます。
2. **Active Backup for Business**のテンプレートを設定します。**[設定] > [テンプレート] > [作成]**の順に選択して新しいテンプレートを作成するか、デフォルト テンプレートを選択して**[編集]**をクリックします。

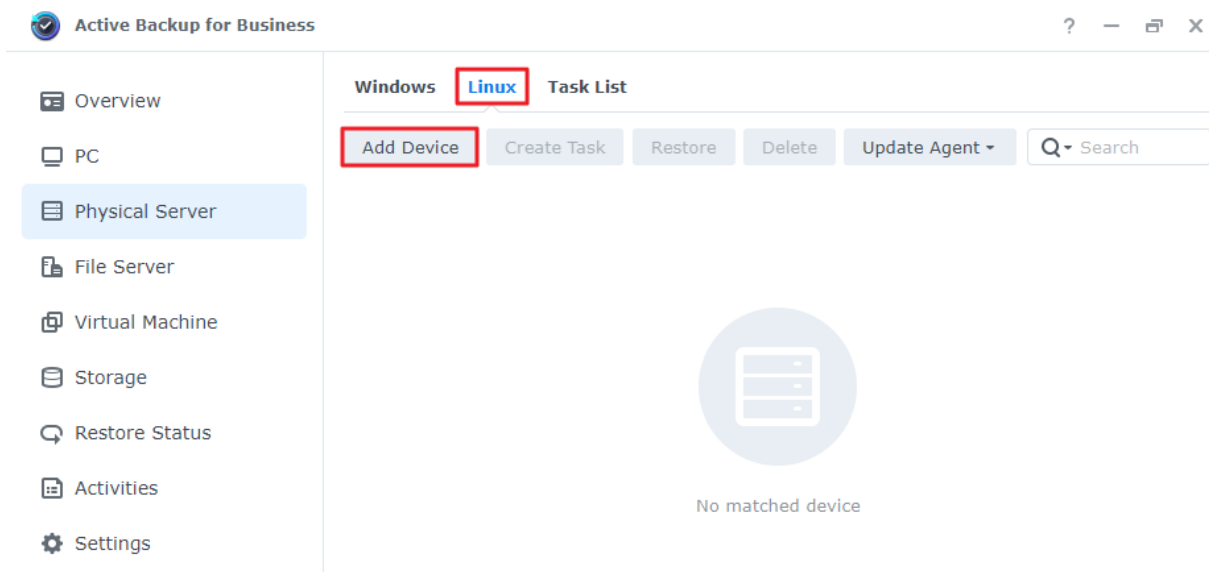
注意：

- ABBは、TCPのネットワークポート**5510**を使用します。
- バックアップ設定をテンプレートとして構成しておくと、複数デバイスに対して同じバックアップ設定を適用することができます。デフォルトのバックアップ テンプレートは常にリストされ削除することができません。
- テンプレートを作成する際、**バックアップタイプ**、**バックアップスケジュール**、**圧縮設定**、**暗号化設定**、および**バージョン保持ポリシー**について指定できます。

デバイスを追加

1. 以下の情報を確認し、互換タイプのファイルを[theダウンロードセンター](#)から、または対象デバイスで**[Active Backup for Business] > [物理サーバー] > [Linux] > [デバイスの追加]**に移動してダ

ダウンロードします。



2. ターゲットのLinuxデバイスに適切なファイルをダウンロードし、解凍してください。

How to Add Linux Devices to the List

An agent and a driver are required on the Linux device you wish to protect:

1. Download and extract the file to your target Linux devices ([deb x64 / rpm x64](#))

3. ダウンロードしたファイルを解凍した後、README ファイルの手順に従って、`sudo ./install.run` を実行してスナップショット ドライバとエージェントをLinuxデバイスにインストールします。

バックアップタスクの作成

Active Backup for Businessエージェントが、NASに接続されているLinuxデバイスにインストールされると、適用可能なテンプレートに従ってバックアップ タスクが作成されます。各デバイスに対して1つ以上のバックアップ タスクを作成できます。

1. [物理サーバー] > [Linux] に進み、デバイスを選択し、[タスクの作成] をクリックします。これは、[物理サーバー] > [タスクリスト] > [作成] でも可能です。
2. [作成] をクリックする前にデバイスを選択していない場合は、[ターゲット デバイスの選択] ページが表示されます。リストから物理サーバーを選んでください。
3. ウィザードのステップに従ってタスクに名前を付け、ターゲット デバイスを選択し (もしまだ選択されていなければ)、バックアップ先を選んでください。

ソース タイプの選択

選択肢：

- **デバイス全体**：設定とアプリケーションを含むサーバー全体をバックアップします。
- **システム ボリューム**：Linuxシステム データと共にパーティションを保護します。

- **カスタマイズされたボリューム**：手動でバックアップターゲットを選択します。外部ハードドライブ以外の外部デバイスはサポートされないことに注意してください。

バックアップ先の選択

1. バックアップ先が **Btrfs** ファイルシステムを使用していることを確認してください。Active Backup for BusinessをNASにインストールした時に、「**ActiveBackupforBusiness**」という名前の共有フォルダが自動的に作成されます。
2. バックアップ先として Btrfs ファイルシステムで共有フォルダを選択します。

タスク設定

- データ転送圧縮、データ転送暗号化およびアプリケーション対応バックアップを有効化できます。
- 圧縮と暗号化はバックアップ先に対して有効化できます。
- **物理サーバー**のバックアップを行うためには、**バックアップ検証**を選択して、スケジュールされたテストランを実施することができます。これは**Virtual Machine Manager**で実行されます。バックアップが正常に復元されたことを確認できるよう、すべてのプロセスは参考のためビデオとして記録されます。
- **物理サーバー**のバックアップを行なう場合、プレ/ポスト スクリプトをカスタマイズすることができます。

注意：

- バックアップ先の圧縮および暗号化設定は、最初のバックアップタスクを作成した後は**変更できません**。今後のタスクで別の設定を使用する場合は、新しい宛先にタスクを作成してください。
- バックアップ先で圧縮や暗号化が有効でない場合、次の**パッケージアーチ**を持つNASモデルは、**Instant Restore to Microsoft Hyper-V**、**Instant Restore to Virtual Machine Manager**、**Backup Verification**を**実施できません**。Avoton、Braswell、Bromolow、Cedarview、および Grantley。

バックアップタスクの予約

- **手動バックアップ**では、各バックアップタスクを手動で開始する必要があります。
- **スケジュールされたバックアップ**は1時間ごと、毎日、毎週のペースで実行されるように設定することができます。

ITインフラストラクチャの使用負荷が非常に高い時にタスクが実行されるのは望ましくない場合、**[バックアップウィンドウの設定]**を選択して、各週にバックアップタスクが実行される時間帯を設定することです。

保持ポリシーを選択

- バックアップのバージョンをすべて保存、保存するバージョンの数を制限、あるいはスケジュールに従って特定のバージョンだけを保存のいずれかを選べます。
- 毎日、毎週、毎月あるいは毎年の最新のバージョンを保持するなど、バックアップバージョンを保存するルールを設定することができます。保持ポリシーは、**[Active Backup for Business] > [物理サーバー] > [タスク リスト] > タスクを選択 > [編集] > [保持] > [高度な保持ポリシー] > [ルールを設定]** で編集できます。
- **[最新のバージョン ... のみを保持]** オプションを選択すると、設定された時間間隔にかかわらず特定数のバージョンが保存されます。特定の時間範囲複数のバックアップバージョンがある場合は、最新のものだけが保存されます。たとえば、1時間ごとに実行されるバックアップタスクに対して、「1」日の**最新バージョンを保持**に設定した場合、23時にバックアップされたバージョンのみが保持されます。
- ひとつのバージョンが、一度に複数の保持ルールに適合することも可能です。たとえば、ひとつのバージョンが週次保持ルールと毎日保持ルールの両方によって同時に保持されることが可能です。高度な保持ポリシーは、**長期保持ポリシー (GFS)** を採用します。

Set Rules X

Apply the following rules to keep backup versions. One version can meet multiple rules at the same time. [Learn more](#)

<input checked="" type="checkbox"/> Keep all versions for	<input type="text" value="1"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the day for	<input type="text" value="7"/> days
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the week for	<input type="text" value="4"/> weeks
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the month for	<input type="text" value="12"/> months
<input checked="" type="checkbox"/> Keep the latest version of the year for	<input type="text" value="3"/> years

The system will ensure a certain number of latest versions are kept before applying the retention rules above.

Number of latest versions to keep	<input type="text" value="10"/> versions
-----------------------------------	--

Cancel OK

バックアップタスクの管理

すべての既存のタスクが **[Active Backup for Business] > [物理サーバー] > [タスク リスト]** の下に表示されます。

バックアップタスクの編集または削除

タスクを個別に編集、またはいくつかのタスクを同時に編集するには、[PC] または [物理サーバー] > [タスク リスト] に進み、1つまたはいくつかのタスクを選択し (Ctrl + 左クリック)、[編集] をクリックします。

- バックアップ先は変更することができません。
- タスク設定とソースタイプは、個別あるいは同時のいずれでも変更可能です。
- タスク名は、個別でしか変更できません。

バックアップタスクを削除するには、対応するタスクリストで1つ以上のタスクを選択してください。操作を確認したら、すべてのバックアップされたデータがバックアップタスクで削除されます。

タスクを削除しても、**Active Backup for Business**エージェントはクライアントデバイスから削除されません。これは引き続き [物理サーバー] の下に表示されます。テンプレートは、[設定] > [テンプレート] の下に保持されます。

詳細



ソース、実行時間、持続期間、バックアップのログ時間など、タスクのステータスおよびログについての情報を見るには、タスクを選択し、[詳細] をクリックします。

バージョン

作成のステータスおよび時間などバックアップされたバージョンの情報を見るには、タスクを選択して [バージョン] をクリックします。また、バックアップ検証を有効化すると、フォルダアイコンをクリックして、バックアップされたデータとバックアップのライブビデオを閲覧することができます。

Backup Version Information

×

	Time of creation	End Time	Backup Status	
🔒	10/17/2022 08:06:46	10/17/2022 08:09:32	Successful	 

エージェントをアップデート

Synology NASがインターネットに接続されている場合、[Active Backup for Business] > [物理サーバー] の順に進みます。更新が必要な対象デバイスを選択し、[エージェントをアップデート] をクリックします。

Synology NASがインターネットに **接続されておらず**、プライベートネットワークに接続されている場合：

1. **ダウンロードセンター**で**Active Backup for Business**エージェントインストーラーをダウンロードし、**File Station**を使用してそれをSynology NASの任意のフォルダにアップロードします。インストーラーの位置を書きとめてください。
2. デバイス上で、**root権限でDSMにサインイン**します。
3. 次のコマンドを実行して、ターゲットデバイスにエージェントをインストールします。

```
cp /[インストーラーをアップロードしたボリューム]/[インストーラーをアップロードしたフォルダ名]/[インストーラー名]/[Active Backup for Business をインストールしたボリューム]/^@tmp/
```

たとえば、インストーラーの場所が /volume1/Files/Synology Active Backup for Business Agent-2.2.0-1531-x64-deb の場合は、Active Backup for Businessは、volume1にインストールされます。

```
cp /[volume1]/[Files]/[Synology Active Backup for Business Agent-2.2.0-1531-x64-deb]/[volume1]^@tmp/
```

4. セットアップが完了すると、エージェントが正常にアップデートされます。

復元ガイド

Active Backup for Businessは、Linuxデバイスのバックアップを復元するためにいくつかの方法を提示します。どの方法が事例に最も適しているかは、単にファイルを復元しただけなのか、それとも前の状態にデバイス全体を戻したいのかどうかによって変わります。Linuxバックアップタスクには、仮想復元を行うオプションもあります。

復元オプション

- **デバイス全体の復元**：ブート可能なISOイメージまたはUSBドライブを作成して、**Linux用のActive Backup for Businessリカバリメディア**経由でデバイスを起動してウィザードを表示します。必要に応じて、後でSynology NAS経由でネットワーク上でデバイス全体（ベアメタル復元）あるいは特定のボリュームを復元することができます。
- **細かい（ファイルまたはフォルダレベル）復元**：バックアップバージョンを選ぶか、あるいは**Active Backup for Business Portal**で復元用のファイルまたはフォルダを選択し、元の位置に自動的に復元するか、異なるデバイスか位置にデータをダウンロードします。DSMの[コントロールパネル]で、エンドユーザーに、復元またはダウンロードの権限を与えることができます。

以下の方法を使用することで、VMware vSphere、Microsoft Hyper-V、またはSynology VMM経由でLinux物理サーバーのバックアップタスクを仮想マシンに復元できます。

- **即時復元**：Linuxデバイスのバックアップイメージを、VMwareまたはHyper-V内の仮想マシンに変換します。この方法は、仮想マシンを圧縮および重複排除されたバックアップファイルから直接再起動することで、仮想マシンのダウンタイムを最小化できます。この即時復元は、数秒以内に仮想マシンを再開させることができますが、I/O性能は制限されます。
- **フル仮想マシン復元**：LinuxデバイスのバックアップイメージをVMwareまたはHyper-Vの仮想マシンに変換します。この方法は、プライマリ仮想マシンが故障した時に、仮想マシン全体をバックアップファイルからその一番最近の状態に復元、あるいは特定の以前の時間点に復元することができます。この方法は時間とリソースを多く使用しますが、完全なI/Oディスクのパフォーマンスを提供します。
- **Synology Virtual Machine Manager (VMM) への即時の復元**：ダウンタイムの許容値が限られている場合の緊急な事例においては、**Synology Virtual Machine Manager (VMM)**に物理サーバーのバックアップ済みイメージをマウントし、それに電源を入れて業務を続行します。この方法のためには、Synology VMMがDSMにインストールされている必要があります。

リカバリ方法に対する複数タイプの比較に関しては、下記の表を参照してください。

アイテム	フル復元	VMware への即時復元	Hyper-V への即時復元	VMM への即時復元
------	------	---------------	----------------	------------

目標復旧時間 (RTO)	長い RTO	短い RTO	短い RTO	短い RTO
I/O性能	フルディスク	限定ディスク	限定ディスク	フルディスク (NAS)
サービスの場所	VMwareまたはHyper-V	VMware	Hyper-V	NAS
バックアップデータ保存場所	VMwareまたはHyper-V	NAS	NAS	NAS
復元後に求められる事項	それが実稼働サイトに復元される場合、追加操作は必要ありません。	完了するには、生成サイトへ戻る必要があります。	完了するには、エクスポートして生成サイトへインポートする必要があります。	完了するには、生成サイトへ戻る必要があります。

デバイス全体の復元

Linux用Synology Active Backup for Businessリカバリメディアは、ISOイメージを使用して導入されますが、これはUSBに焼き付けることもできます。Linux向けのリカバリメディアを作成するには、[ダウンロードセンター](#)に移動し、Linux用のSynology Active Backup for Businessリカバリメディア (Synology-Recovery-Media.iso)をダウンロードしてください。

起動可能USB復元ドライブをISO焼付用ソフトウェアで作成する場合、レガシーBIOSまたはUEFIに対しては、「[Linuxデバイス用ブータブルUSB復元ドライブを作成する](#)」の手順を参照してください。

リカバリウィザードはすでにLinux用Active Backup for Businessリカバリメディア (Synology-Recovery-Media.iso)に組み込まれているため、Linuxデバイスをリカバリメディアで起動すると自動的にそれが立ち上がります。

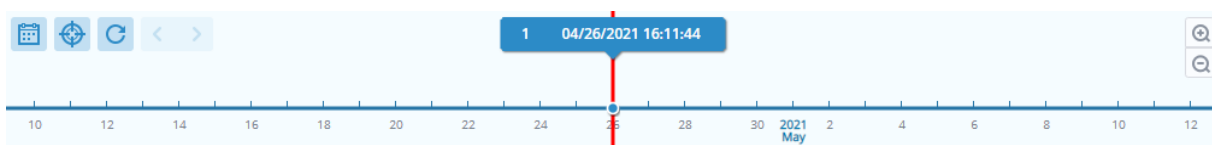
個々のファイルを復元

個々のファイルとフォルダの復元は、Active Backup for Business Portalを通じて実行されます。管理者は、タスク生成中およびタスク編集中に[復元権限を委任](#)できます。

DSM からファイルあるいはフォルダを復元

Active Backup for Business を管理する管理者とアカウントは、どのデバイスからも**復元ポータル**にアクセスすることができます。元のバックアップ元デバイスにファイルを戻すかあるいはブラウザによってダウンロードするには、下記のステップを使用してください。

1. **[DSMメインメニュー]**に進み、**[Active Backup for Business Portal]**を選択します。
2. ページの上部の**[ルールを表示]**の下で、適切な復元権限を持ったユーザーを選んでください。
3. **タスク**の下で、ファイルの復元先または復元元のソース デバイスを選択してください。
4. 復元するフォルダまたはファイルを選択します。
5. ページ下部のスライダーを使用して、フォルダまたはファイルを復元するバックアップバージョンを選択し、次にファイル エクスプローラーでフォルダ構造をクリックスルーし、ディレクトリまたはファイルを選択します。



6. データの**[復元]**または**[ダウンロード]**を選択してください。**[復元]**を選択した場合、バックアップエージェントはファイルまたはフォルダをダウンロードし、デバイス上の指定された位置にそれらを戻します。また、関連するチェックボックスにチェックを入れることにより、復元中に同じ名前を持つファイルをスキップできます。**[ダウンロード]**を選択すると、選択されたファイルが、選択されたダウンロード場所へブラウザ経由でダウンロードされます。
7. ファイルの復元先を選択し、**[適用]**をクリックします。

右上隅の**復元タスクアイコン**のクリックにより、復元の進行を見ることができます。

	Time of creation	End Time	Backup Status	Verify backup Status
🔒	04/26/2021 15:47:41	04/26/2021 16:11:44	Successful	🎬 🗑️

仮想マシンとして即時復元

VMwareへの**即時復元**とHyper-Vへの**即時復元**により、以下の方法で、復元ウィザードを起動し物理サーバーを仮想マシンとして直前の状態に復元するか、利用可能な復元ポイントのひとつに復元することができます。

即時復元ウィザードを起動

1. **[Active Backup for Business]** > **[物理サーバー]** > **[Linux]** の順に進み、復元したいデバイスを1つ選択してから、**[復元]** をクリックして復元ウィザードを起動します。

2. デバイスと復元ポイントを選択し、**[VMware vSphereへ復元]** または **[Microsoft Hyper-Vへ復元]** を選択し、次に **[即時復元]** を選択します。

注意：

- hypervisor が、Synology NASのiSCSIターゲットにアクセスしてマウントする権限があることを確認してください。**Hyper-Vへの即時復元**を実行すると、バックアップイメージがSynology NASの一時的なiSCSIターゲットに複製され、ハイパーバイザーがiSCSIターゲットをマウントします。
- **Hyper-V へ即時復元**を実行するには、**iSCSI Initiator Service** システムを有効化しておく必要があります。

復元設定を構成

新しいVMの名前を指定してから、デバイスを復元する先のフォルダー、ハイパーバイザー、ネットワークを選択します。

適用と復元

復元の要約が表示されます。復元する情報を確認したら、**[完了]** をクリックしてください。その後、**[復元ステータス]** が自動で表示され、復元の進捗状況をモニターできます。

VMware へ即時復元の場合、**[VM を移行]** ボタンをクリックしてプロセスを完了します。

仮想マシンを即時に実行したい場合は、**[復元後にVMの電源を自動でオン]** を有効化します。**即時復元**をテスト目的で実行している場合、競合を避けるために、このオプションを**無効化**されたままにして、最初の仮想マシンを本番ネットワークから手動で切断することを推奨します。

仮想マシンとして全体復元

[仮想マシン全体復元] で、LinuxデバイスのバックアップイメージがVMwareまたはHyper-Vの仮想マシンに転換されます。仮想マシンは、圧縮および重複排除された物理サーバーのバックアップファイルからVMwareまたはHyper-V内で直接再起動することができるため、ダウンタイムが最小限に抑えられます。

VM全体復元ウィザードの起動

1. **[Active Backup for Business]** > **[物理サーバー]** > **[Linux]** の順に進み、復元したいデバイスを1つ選択してから、**[復元]** をクリックして復元ウィザードを起動します。
2. デバイスと復元ポイントを選択し、**[VMware vSphereへ復元]** または **[Microsoft Hyper-V へ復元]** を選択し、次に **[仮想マシン全体復元]** を選択します。

復元設定を構成

新しいVMの名前を指定してから、デバイスを復元する先のフォルダー、ハイパーバイザー、データストア、ネットワークを選択します。

適用と復元

復元の要約が表示されます。復元する情報を確認したら、**[完了]** をクリックしてください。その後、**[復元ステータス]** が自動で表示され、復元の進捗状況をモニターできます。

仮想マシンを即時に実行したい場合は、**[復元後にVMの電源を自動でオン]** を有効化します。**VM全体復元**をテスト目的で実行している場合、競合を避けるために、このオプションを**無効化**されたままにして、最初の仮想マシンを本番ネットワークから手動で切断し、隔離したテスト用ネットワークにそれを接続することで競合を避けることを推奨します。

Synology Virtual Machine Manager (VMM) への即時の復元

Active Backup for Businessを**Synology Virtual Machine Manager (VMM)**と統合することで、ユーザーは、ディザスタリカバリ、ブラウズおよびアプリケーションデータの復元、テスト環境のアップグレードのために代替のソリューションを持つことができます。

ダウンタイムをできるだけ短くしたい場合、Linux物理サーバーのバックアップ済みイメージを**SynologyのVirtual Machine Manager (VMM)**にマウントし、それに電源を入れてビジネスを続行できます。これを行うには、**Synology Virtual Machine Manager**がDSMにインストールされていなければなりません。

このセクションでは、Synology VMM経由でバックアップデバイスを即時に復元することの前提条件と指示について説明します。

制限事項、機能、その他の詳細情報は、[Virtual Machine Manager製品仕様](#)を参照してください。

Synology VMMウィザードの起動

[Active Backup for Business] > **[物理サーバー]** > **[Linux]** の順に進み、復元したいデバイスを選択します。**[復元]** をクリックして復元ウィザードを起動し、デバイスと復元ポイントを選択した後、**[Synology Virtual Machine Manager (VMM) への即時復元]** を選択します。

注意：

- Synology VMMで即時復元できるのは一度に1つの物理サーバーのみです。複数の仮想マシンを選択して、それを同時に実行することはできません。

仮想マシンの設定を構成

物理サーバーと復元ポイントを選択したら、[Synology VMMウィザード](#)で仮想マシンを設定する必要があります。

適用と復元

設定を構成後、**[完了]** をクリックします。バックアップされた仮想マシンが、Synology VMMにインポートされ、それをSynology VMMコンソールで電源オンすることができます。

ベストプラクティス

次のセクションでは、リモートバックアップコピーの作成と再リンクによって、バックアップデータを失わないようにするお勧めの方法をご説明します。

リモートバックアップのコピーを保持し、再リンクする

Active Backup for Businessは、Synology NAS上のすべてのデバイスのバックアップデータを安全に保存します。ただし、1つのデバイスに生じた問題がインフラストラクチャ全体に影響することがあります。

自然災害、窃盗あるいはネットワーク障害により、データを問題することができない場合や、復元処理に時間がかかることがあります。そのため、異なるデバイス上で、および異なる場所で、すべてのバックアップのコピーをリモートで保存することを強くお勧めします。

データのコピーを3つ(オリジナルのコピー、バックアップ、別の場所にあるそのバックアップのコピー)常に維持することが重要です。これは、[3-2-1バックアップ戦略](#)と呼ばれます。簡単に行えるよう、Synology NASではこの戦略を導入するために必要なものがすべて揃っています。

リモートコピーを作成

次の2つのDSMアプリケーションは、Active Backup for Businessのデータ、およびSynology NASからの設定を、他のデバイスあるいはパブリッククラウドにコピーするために使用することができます。

- **Snapshot Replication**。セカンダリSynology NASへのアクセスを持っている場合、このオプションが推奨されます。ABBのデータと設定を別のSynology NASに複製して、そのデバイス上のABBのタスクをすべて直接素早く再開することができます。
- **Hyper Backup**。このオプションにより、ABBのデータと設定を、ポータブルドライブ、ファイルサーバー、パブリッククラウドストレージなど、いろいろな場所にバックアップできます。ただし、復元するには、ABBのタスクを再リンクして再開する前に、まずバックアップを、動作中のSynology NASに復元する必要があります。

再リンク

複製またはバックアップのタスクを作成した後で、既存のActive Backup for Businessのタスクやバックアップデータの復元や再リンクができるようにしておくことが重要です(それがセカンダリNASや、パブリッククラウド、その他のストレージメディアにあっても)。

Active Backup for Businessのデータを**Snapshot Replication**および**Hyper Backup**を利用して、バックアップおよび再リンクする方法に関する詳細な手順は、次のチュートリアルを参照してください。

- [Active Backup for BusinessデータをディステーションのSynology NASにバックアップして再リンクする方法](#)

お使いのSynology NASが64ビット プロセッサを搭載し、DSM 6.1.7以降が実行されており、Active Backup for Business 2.0.4以降が実行中で必要なパッケージがインストールされていることを確認してください。詳細については、チュートリアル**の「環境」**セクションを参照してください。

詳細情報

関連の記事

- [Active Backup for Businessについてのよくある質問](#)
- [Active Backup for Businessを実行するための適切なNASの選び方](#)
- [Active Backup for BusinessデータをディスティネーションのSynology NASにバックアップして再リンクする方法](#)
- [Virtual Machine Manager で Active Backup for Business からデバイス全体のバックアップを復元する方法は？](#)
- [Linux システムを Active Backup for Business を復元しましたが、ブートしません。どうしたらよいでしょう。](#)
- [Active Backup for Businessで同時にバックアップできるデバイスの数はいくつですか？](#)

ソフトウェア仕様

パッケージの機能、コンポーネントおよび制限に関する詳細は、Active Backup for Businessの[ソフトウェア仕様](#)を参照してください。

その他のリソース

より詳細なステップバイステップのチュートリアルや画像情報は、[SynologyのYouTubeチャンネル](#)をご覧ください。そこでは、「Active Backup for Business」を検索することで、関連するビデオを見つけることができます。

さらに、[Synology Documentation](#)では、Active Backup for Business用の管理者ガイド、パンフレット、技術仕様書、ユーザー ガイド、白書、およびその他を検索できます。